



# 東北大学102周年 関東交流会

## ■ 日時・会場

**2009年8月2日(日) 15:00~19:00(開場14:30)**  
サピアタワー(東京ステーションコンファレンス5F)

## ■ プログラム

**講演会** 15:00~17:30

司会	東北大学総長特別補佐／東北大学萩友会事務局長	圓山 重直
挨拶	東北大学総長／東北大学萩友会長	井上 明久
東北大学の現況	東北大学副学長・総長室長／東北大学萩友会理事	北村 幸久
萩友会の活動紹介	東北大学理事／東北大学萩友会代表理事	野家 啓一

東北大学ディスティングイッシュト プロフェッサーによる講演

人間関係は犯罪を防げるか？ — 東京を事例として

東北大学文学研究科教授 佐藤 嘉倫

画像エレクトロニクスが拓く近未来社会

東北大学工学研究科教授 内田 龍男

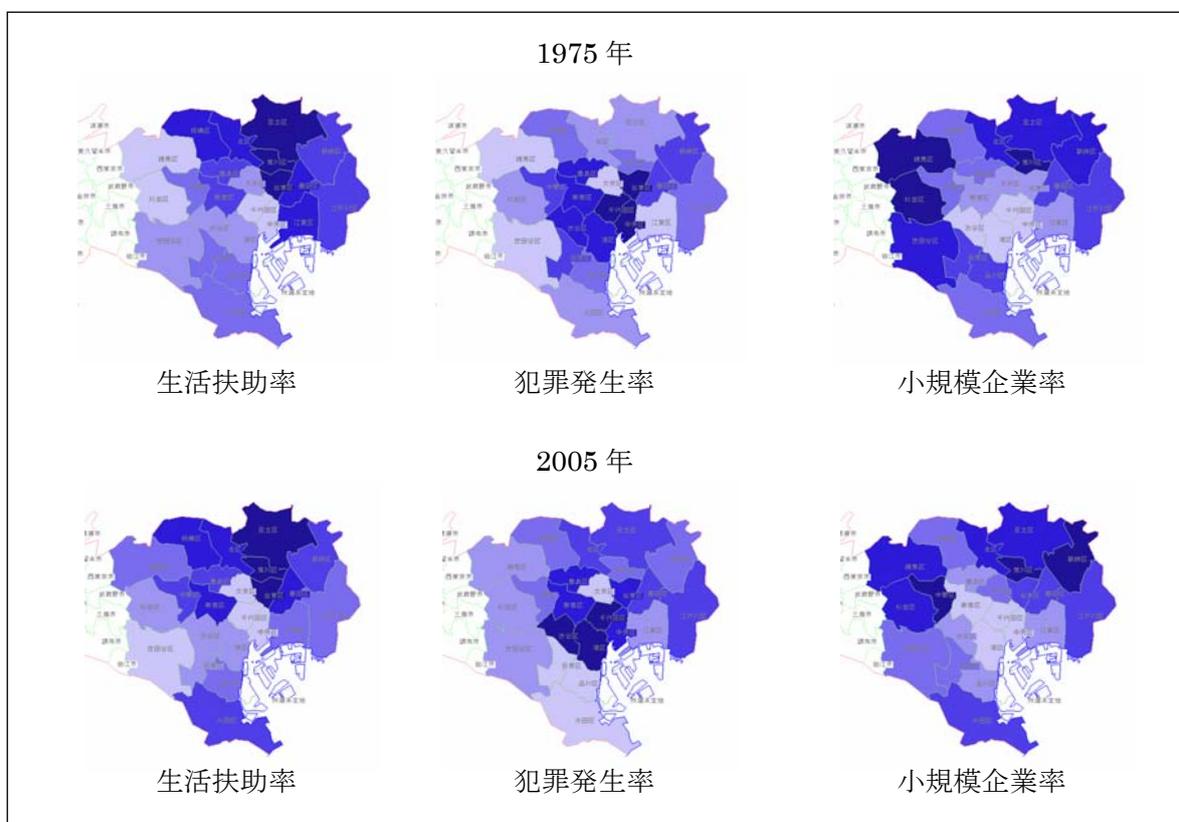
**懇親会** 18:00~19:00

# 人間関係は犯罪を防げるか？ — 東京を事例として

東北大学文学研究科教授 佐藤 嘉倫

## 【講演概要】

アメリカの大都市では、貧困地域で犯罪が多発する傾向があります。貧困と犯罪が強く結びついています。しかし東京では、そのような傾向が見られません。なぜこのような違いがあるのでしょうか。私は、東京の山の手に比べて貧しい下町では、自営業を中心とする長期的な人間関係(これを社会学者は社会関係資本と呼びます)が犯罪を抑止する働きを持っていると考えます。長期的な人間関係は地域社会に相互監視のシステムを発達させることができ、これが犯罪を防ぐと考えられます。実際に、東京23区を対象に生活扶助率、犯罪発生率、小規模企業率の地図を書くと、このことが明らかになります。講演では、1975年と2005年の地図を比較しながら、社会関係資本の影響の変化を検討します。



## ■講師プロフィール



東京大学大学院社会学研究科博士課程を単位取得退学後、横浜市立大学商学部講師・助教授を経て、1992年に東北大学文学部助教授に就任。その後、シカゴ大学社会学部・コーネル大学社会学部客員研究員を経て、2002年に東北大学文学研究科教授に就任しました。教授就任後は、21世紀COEプログラム「社会階層と不平等研究教育拠点の形成」拠点リーダーとして、国際的研究教育拠点を形成するとともに、社会階層と不平等の融合的・複眼的研究を推進しました。2008年にはグローバルCOEプログラム「社会階層と不平等教育研究拠点の世界的展開」に採択され、格差問題を中心とした社会階層と不平等のより高度な研究を進めています。また、数理社会学会会長や国際社会学会理事、国際社会学会合理的選択理論部会長を歴任するなど、国際的視点から社会学の発展に貢献しています。

文学研究科教授 佐藤 嘉倫

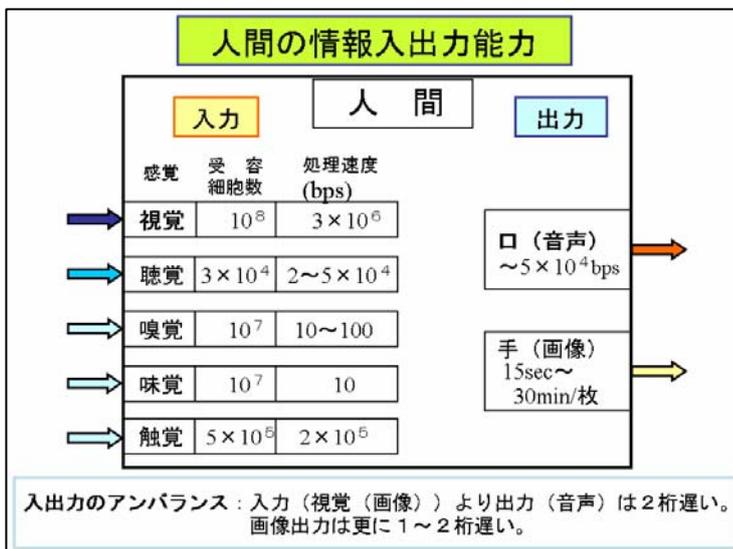
# 画像エレクトロニクスが拓く近未来社会

東北大学工学研究科教授

内田 龍男

## 【講演概要】

人間は外界の情報を五感を通して入力していますが、その85%は目を通して画像で入力と言われてい  
ます。しかし、情報の出力としては、主に口を通して音声を用います。その情報量は画像の 100 分の1程度しか  
ありません。画像の出力機能はさらに乏しく、絵を描いても音声の10分の1から 100 分の1程度でしかありません。  
このように人間は情報の入出力機能に大きなアンバランスをもっており、これを言語という高度な情報圧縮を用  
いて埋め合わせています。このアンバランスを解消して、画像情報を中心としたコミュニケーションや情報伝達が  
社会を大きく変えていくものと考えられます。このような画像エレクトロニクスが拓く近未来の社会について解説し  
ます。



## 講師プロフィール



工学研究科教授 内田 龍男

1970 年に東北大学工学部電子工学科を卒業、1975年に大学院工学研究科博士課程電子工学専攻を修了して工学博士になりました。直ちに電子工学科の助手、1982年に助教授、1989年に教授に就任しました。2002年から2007年の間21世紀COEプログラム拠点リーダー、2004年には工学研究科副研究科長、2006年から2009年の間は工学研究科長・工学部長をつとめ、現在に至っています。

この間、液晶の基礎研究と画像表示工学の研究を行うと共に、多くの学会の会長、副会長、理事、評議員、国際会議の組織委員長、実行委員長、プログラム委員長などを歴任し、日本や世界の液晶およびディスプレイ研究を牽引してきました。その研究成果に対して、SID Slottow-Owaki Prize、SID Jan Rejchman Prize、井上春成賞、科学技術庁長官賞、産学官連携功労者表彰・文部科学大臣賞、国内外の多数の学会の業績賞、フェローなどが授与されています。

## 大型高精細ディスプレイと通信ネットワークの連携

- ・電子ウィンドー
- ・ヴァーチャル二世帯住宅
- ・緊急情報表示
- ・来訪者通話(ビデオインターフォン)
- ・テレビ電話



- ・デジタル電子白板
- ・双方向電子教育
- ・遠隔医療・診断・緊急医療システム
- ・遠隔会議

## 東北大学ディステイングイッシュト プロフェッサーとは

「ディステイングイッシュト プロフェッサー制度」とは、教育、研究、社会貢献などの分野において先導的な役割を担う教授を尊重し、その活動をサポートする制度です。優秀な教員に対する東北大学の姿勢を世界に示すことで、本学の認知度向上を図るとともに、人材確保に資することを目的としています。

本制度により初代ディステイングイッシュト プロフェッサーとして任命されたのは、各分野におけるトップレベルの卓越した専門知識に基づき極めて高い業績を挙げている30名(2008.4.1 発令25名、2008.8.1 発令5名)の教授。いずれも本学で生まれた「Challenge(挑戦)」、「Creation(創造)」、「Innovation(革新)」という3つのキーワードを基軸とした研究マインドを備えた人物です。

ディステイングイッシュト プロフェッサーの活躍は、他の教員の励みとなり、また学生の良い手本となって本学に浸透し、今後の人類社会の発展に貢献するものと期待されます。本学が新たな100年の歴史づくりをスタートした2008年度から任期である3年間、本学の様々な活動を広く社会へ発信していきます。

氏 名	所 属	研 究 内 容
2008.4.1 発令		
浅 川 照 夫	高等教育開発推進センター	大学英語教育の課題と対策
内 田 龍 男	工学研究科	液晶ディスプレイの高性能化に貢献
大 隅 典 子	医学系研究科	脳神経細胞の産生メカニズムを解明
大 谷 栄 治	理学研究科	高温高圧環境を再現し、地球の起源と進化を探究
大 野 英 男	電気通信研究所	スピントロニクスの可能性へ挑戦
岡 芳 知	医学系研究科	糖尿病の発症進行、治療法を追求
川 島 隆 太	加齢医学研究所	脳ダイナミクス、脳機能イメージングの研究で社会貢献
小 林 隆	文学研究科	方言学的に日本語の歴史を解明
小 柳 光 正	工学研究科	半導体メモリの高集積化と三次元集積回路の応用研究へ
佐 藤 英 明	農学研究科	精子・卵子の研究により家畜の改良に貢献
佐 藤 滋	国際文化研究科	言語現象の脳内メカニズムの追求
佐 藤 源 之	東北アジア研究センター	地雷除去に役立つ探知センサーを開発
寒 川 誠 二	流体科学研究所	ナノレベルの加工技術、薄膜形成技術の追求
庄 子 哲 雄	工学研究科	材料の劣化や破壊のしくみを解明
辻 村 みよ子	法学研究科	憲法学、ジェンダー法学の研究
寺 崎 哲 也	薬学研究科	脳関門で働くトランスポーターを追求
照 井 伸 彦	経済学研究科	統計手法による市場予測の研究
中 沢 正 隆	電気通信研究所	欧米をリードする光通信技術の革新
平 間 正 博	理学研究科	天然有機化合物の合成から学際的研究へ
前 川 禎 通	金属材料研究所	磁性と伝導現象を中心に電子物性を研究
水 野 健 作	生命科学研究科	細胞骨格に関わるシグナル伝達機構の解明
水 原 克 敏	教育学研究科	教師養成、カリキュラム編成の課題を追求
宮 下 徳 治	多元物質科学研究所	高分子ナノ材料の開発
宮 本 明	未来科学技術共同研究センター	独創技術から新しい学問を育成
吉 野 博	工学研究科	住宅の快適環境づくりを研究
2008.8.1 発令		
井 上 邦 雄	理学研究科	ニュートリノの解明による宇宙の理解
小 谷 元 子	理学研究科	確率論と幾何学との関わりを研究
佐 藤 嘉 倫	文学研究科	社会階層と社会変動を研究
中 静 透	生命科学研究科	森林と生物の生態を探究
圓 山 重 直	流体科学研究所	伝熱制御と異分野科学との融合を探究

(50音順)